

職務経歴書

<https://www.yuyamiyazaki.com/>



2024年12月7日 現在

氏名 宮崎 優也

■プロフィール

1988年、東京都生まれ。高校卒業と同時に渡米し、指揮、音楽学、神経心理学を修める。ノーステキサス大学音楽学部にてオーケストラ指揮の修士号を取得後、博士課程に進学し単位取得満期退学。在学中より、オーケストラやオペラ公演での指揮活動を行うと同時に、青少年オーケストラの音楽監督や非常勤講師として教育・人材育成にも尽力。11年間にわたる米国での活動を経て帰国し、関西を拠点にオペラ指揮者、文化政策アドバイザー、制作プロデューサーとして幅広く活動を展開。現在は大阪アーツカウンシル統括責任者や大阪府・大阪市の文化アドバイザーなどを務め、持続可能な文化支援策の構築や多角的な国際・地域文化振興に力を注いでいる。

■学歴

ノーステキサス大学 音楽学部 博士課程（後期）単位取得満期退学（2015年～2019年）

専攻：オーケストラ指揮（Doctor of Musical Arts）

副専攻：音楽学（Opera Studies）

ノーステキサス大学 音楽学部 修士課程（2013年～2015年）

専攻：オーケストラ指揮（Master of Music）

副専攻：音楽史（Music History）

ネバダ州立大学リノ校 学士課程（2008年～2012年）

専攻：音楽（演奏：トロンボーン）（Bachelor of Arts in Music）

副専攻：神経心理学（Neuropsychology）

■職務経歴詳細

2023年4月～現在 独立行政法人 日本芸術文化振興会 プログラムオフィサー

【活動概要】

文化庁と日本芸術文化振興会が執行する各種補助金や助成金事業に対して、それらが一層有効かつ効果的に実施されるように、審査基準の見直しや各種事業の制度設計への助言、芸術団体からの相談対応や伴走支援、助成対象事業に対する効果検証や事後評価を行う。

【活動内容】

- 採択事業や不採択事業に対する公演調査やヒアリング
- 各種事業の制度設計の助言
- 各種事業の審査基準の見直し
- 各種事業の効果検証や事業評価レポートの作成

【主な貢献・工夫】

- 文化芸術活動の本質的な価値である芸術性や創造性を尊重しつつも、社会的へのポジティブな影響や経済の好循環といった機能的価値にも意識を向け、公的予算を投じる文化芸術支援の根拠となるよう、さまざまな観点に配慮しながら業務を遂行している。
- 採択される団体だけでなく、不採択となった団体に対しても継続的なコミュニケーションを行い、次年度の申請や継続する活動に対する助言を心がけている。

・国レベルの文化振興機関として、関西を拠点に活動する自身の知識・経験・ネットワークを活かし、東京一極集中にならず地域における文化芸術活動の現状や課題を情報共有している。

2022年4月～現在 大阪アーツカウンシル 統括責任者

【活動概要】

大阪府により共同設置された「大阪府市文化振興会議」の常設部会として「大阪アーツカウンシル」が2013年に設置された。文化施策の評価、企画調査、情報の収集及び分析等を行い、調査審議した内容を大阪府市文化振興会議に報告・提案し、必要に応じ同会議を通じて知事及び市長に答申、提言等を行う。現場訪問によりアーティストや制作団体へのヒアリングを行い、その時の現状・課題・適切な支援などの現場に即した調査を行う一方、日本の他地域や海外での芸術や文化の振興に関する事例研究やその結果の日本への応用などを提案する。

【活動内容】

・評価・調査

大阪府及び大阪府で行われる文化施策のプログラム評価・調査

対象：43事業（大阪府：16事業、大阪市：27事業）

大阪府市の文化事業として行われる補助金・助成金の採択審査及び評価（約600件）

・調査（シンクタンク）

大阪府市内での芸術や文化に関わる活動の情報収集、分析、提供など

・企画

大阪で活動する文化芸術関係者（アーティスト、制作団体、研究者）へのサポート、芸術や文化を活かした社会課題への対応などに係る新たな施策の企画提案など

【主な貢献・工夫】

・指揮者及びプロデューサーの経験を活かし、現場に赴いてヒアリングを重ね、芸術や文化の活動現場における現状や課題などの調査を心がけるようにしている。また、表面的に見える現象にだけフォーカスするのではなく、関係者とのコミュニケーションを重ね信頼関係を構築しての調査を行い、その場しのぎではなく中長期の対策と一緒に作る姿勢を心がける。

・言語能力や海外経験を積極的に活かし、海外での芸術や文化の振興、また観光・教育・産業など他分野との越境的取り組みなどの調査を行なっている。また、文化的・歴史的な違いなどの背景も併せてリサーチすることにより、その結果を日本の社会システムや風土に受け入れられる形での提案にすることを念頭に置いている。

・文化や芸術そのものの存在や活動をリスペクトしつつ、街づくり・国際交流・教育・観光・医療・環境・福祉・産業など様々な分野との連携の可能性を念頭に置き、文化芸術振興のみの視点にならない様に常に注意をしている。そして、常に他分野の専門家にアドバイスを求めると共に、共同プロジェクトの提案などを行う。

2021年11月～現在 宮崎事務所（個人名活動）

【プロジェクト概要】

芸術・文化事業の企画・制作を中心に、広報・リサーチ・コンサルティングなど多角的なサービスを行政・自治体、観光・都市計画・教育など幅広い民間企業に提供する。また、芸術や文化コンテンツの提供だけに留まらず、様々なセクターで抱える課題の抽出、仮説の検証から、コンセプトメイキング、プロモーション設計、戦略策定までを一連の流れで行う総合プロデュースを行う。協業しているアーティスト/クリエイター/デザイナーと一緒に斬新で創造的なことを仕掛けている。大阪市特定創業支援事業。大阪商工会議所、大阪イノベーションハブ各会員。

【事業ドメイン】

・企画立案

・文化事業の評価・審査

・広報

・リサーチ・シンクタンク

【主な貢献・工夫】

・新型コロナウイルス感染症の影響により社会的な需要の低さを改めて再認識することになった文化芸術であるが、日本の全ての産業において付加価値の創出が重要な現代において、文化や芸術の存在は必要不可欠である。その価値や必要性を可視化し、行政・自治体・民間企業などにエビデンスベースの提案をすることにより、決裁プロセスの複雑な業界においても受け入れられる提案の方法を目指している。

・文化や芸術に係る活動に社会的や経済的な価値を求める傾向にあり、またそれは必要不可欠ではある。しかし、それぞれアーティストやマネジメントがそれを求めるがあまり、文化や芸術の本質を捉え損ねる可能性が出てくる。そのため、発注側と受託側にそれぞれの棲み分けを意図的に明確化し、お互いがwin-winになれる環境をはっきりさせ業務を遂行するコミュニケーションを意識する。

2019年5月～現在 Dallas Asian American Youth Orchestra 音楽評議員

【プロジェクト概要】

米国非営利団体の青少年オーケストラ [Nonprofit Tax Code Designation: 501(c)(3)]の法人運営。年3回の定期公演、隔年の国際演奏旅行、各種コミュニティ貢献イベントの企画運営。

【担当業務】

- ・音楽評議員としてミッション、ビジョン、バリュー、戦略の制定のアドバイス
- ・国際演奏旅行の目的地、コラボレーション団体、旅行会社、運営会社の選定、アドバイス、実行支援

【主な貢献・工夫】

- ・プロフェッショナルの音楽活動やアメリカやヨーロッパでの音楽教育の経験と、アメリカの教育制度が求めるスタンダードを融合させ、現代の子ども、保護者、コミュニティが求める子どものための文化芸術教育の開発とアップデートに対応することを目指す。

2019年8月～2021年8月 堺シティオペラ一般社団法人 事務局長/アーティスティックディレクター**【プロジェクト概要】**

文化芸術団体としてプロフェッショナル音楽家による音楽・オペラ公演制作や地域貢献イベント制作。一般・社会人向けの生涯学習講座の提供や子ども向けのオペラ企画の実施。また、市民参加型のオペラ合唱団の運営により文化芸術による街づくりの側面もある。自主制作から各地行政団体や企業からの公演・ワークショップ、イベントなどの受託事業。

【担当業務】

- ・営業、企画立案、各部署への発注、制作、会計までのプロセスのマネジメント
- ・各種イベントや公演のプロデュースや指揮

【主な貢献・工夫】

- ・指揮者としてのアーティストの視点とプロデューサーとしての総合的な統括の視点の両輪で、芸術と経営のバランスの取れた企画制作を行うこと。
- ・娯楽としての公演・イベントではなくアート教育や文化芸術を通じた街づくりをミッションに掲げ、行政団体や地元企業・事業所との相互支援関係を強める。
- ・オペラという世界共通のアートフォームで日本の伝統舞台芸術を広めるというビジョンのもと、日本舞踊や能楽の要素をオペラ公演やイベントに加えて日本から世界へ独自の文化芸術発信を目指した事業を行う。

2016年6月～2020年6月 Varna International Music Academy 講師/音楽スタッフ**【プロジェクト概要】**

毎年6月～7月にかけて行われる6週間の夏季音楽祭と、それに付随する若手プロフェッショナルのアカデミー。欧米で活躍する音楽家や教育者を講師として迎えて行われる。

【担当業務】

- ・音楽祭/アカデミーのプロジェクト全体の進捗モニタリング
- ・日本におけるPRとオーディションの実施
- ・音楽祭期間中のオペラ公演の副指揮者/音楽スタッフ
- ・音楽祭期間中のアカデミーでの音楽講師

【主な貢献・工夫】

- ・日本を始めアジア諸国ではヨーロッパで開催される研修プログラムに参加するのは活発ではない。そのため通常のPRに加えて安心して受講期間を過ごせるようなカウンセリングなども併せて行う。
- ・世界各国から招聘される講師や受講者が限られた時間の中で相当数の公演、イベント、講義などを受けるため、実演から精神的な部分までのサポートを行う。

2016年8月～2019年5月 Dallas Asian American Youth Orchestra 指揮者**【プロジェクト概要】**

米国非営利団体の青少年オーケストラ [Nonprofit Tax Code Designation: 501(c)(3)]の法人運営。年3回の定期公演、隔年の国際演奏旅行、各種コミュニティ貢献イベントの企画運営。

【担当業務】

- ・5つあるグループのトップであるシンフォニーオーケストラの指揮・指導
- ・行政施設、教育機関、地元の音楽コミュニティとの連携
- ・コミュニティイベントや国際演奏旅行などの企画立案から実行

【主な貢献・工夫】

- ・地域のアジア系アメリカ人の子どもを対象とした青少年オーケストラとして発足したが、白人や黒人など人種はもちろん、様々な宗教やバックグラウンドを持つ子どもたちを対象にプログラムを展開する。多国籍な土地柄の中で「アジア」という付加価値を利用し、他の団体にはない文化や地域色を出した音楽だけに特化しない文化芸術・教育のアクティビティとして認知された。就任当時は3グループであったが、2年間の在籍の間に5グループに成長し、在籍生徒を2倍近くまで増加させた。

2015年8月～2019年5月 University of North Texas College of Music 非常勤講師**【プロジェクト概要】**

米国テキサス州ダラス市近郊に所在する同州最大規模の総合大学の音楽学部。提供するプログラムが豊富で、クラシック、作曲、指揮、ジャズ、キーボード、理論などそれぞれにおいて、学士号、修士号、博士号の学位取得プログラムがある。75の専門課程に分かれており、施設も充実していて300を超える練習室、7つのホール、コンピューターラボ、図書館などを完備。全米で

トップの音楽プログラムの1つとされている。

【担当業務】

- ・音楽学部講師（指揮法基礎1、音楽理論1-2）
- ・スタッフ指揮者（オペラプロダクション）

【主な貢献・自身の創意工夫】

- ・音楽学部の授業はプロフェッショナルを目指す学生のみならず教育関係やそれ以外の分野に進む学生も多いので、必要な知識や実習はもとより音楽や文化という概念的な部分にも興味を持ってもらえるように工夫をした。
- ・地元の高校や青少年音楽グループとの良好な関係を築き、音楽に興味を持っている生徒へのフォローアップを定期的に行った。

2016年8月～2019年2月 The Opera WAKAYAMA 音楽スタッフ/企画スタッフ

【プロジェクト概要】

2008年に和歌山市に発足された任意のオペラ実演グループ。コンサートホールだけでなくカフェ、バー、商業施設など場所を問わずに公演やイベントを行う。音楽やオペラを通じた地域貢献活動としても同地域で認識されている。

【担当業務】

- ・本公演の演目選定、出演者やスタッフの手配、稽古スケジュール作成～遂行、公演の指揮
- ・様々な場所でのプレコンサートや音楽イベントの企画作成と運営
- ・レクチャーコンサートなどのプログラムや台本作成

【主な貢献・自身の創意工夫】

- ・音楽やオペラの公演やイベントに行く方々が少ない地域であるため、気兼ねなく来て楽しんでもらえるような企画を多くした。カフェやバーなど常連のお客様がそのままイベントに残れるような、アットホームなイベントを行った。また、商業施設など不特定多数の人が意図せずに生の音楽に触れる機会を作り、その方々が次の公演に来てもらえるような広報活動的なイベントも多数行った。

2013年8月～2017年5月 Texas Academy of Mathematics and Science 非常勤講師

【プロジェクト概要】

米国テキサス州が運営するSTEM教育型の公立高校で音楽非常勤講師を務める。また、30名程の部員から成る学生オーケストラの指揮と運営を行う。音楽活動だけでなく生徒の悩みや進路などの相談を受け付け、カウンセリングとしての役割も担う。

【担当業務】

- ・音楽の授業を担当
- ・学生オーケストラの企画運営
- ・地元小学校に学生オーケストラのメンバーを派遣するボランティアプログラムの統括

【主な貢献・工夫】

- ・教員がやることを教えるスタイルではなく、あくまでゴールを示し、そこに至るまでのプロセスは生徒自身で考えて実行する。またそのための支援を提供することを心掛けた。それにより生徒一人一人が自分の役割や組織内での働きが明確化され、多様なバックグラウンドを持つ生徒一人一人が充実感を持って活動に勤しむ環境を作ることができた。

■委員歴

- ・2024年2月～現在 河内長野市 文化振興計画推進委員会 委員
- ・2023年4月～現在 大阪市 中学生が参加するコンサート企画運営業務委託事業者公募に伴う公募型プロポーザル審査会 委員
- ・2023年4月～現在 大阪市 大阪クラシック運営業務委託事業者公募に伴う公募型プロポーザル審査会 委員
- ・2023年4月～2024年3月 大阪市 大阪市アーティストサポート事業業務委託契約候補者選定会 委員
- ・2022年8月～現在 一般社団法人インターナショナルアーティスト支援協会 顧問
- ・2022年4月～現在 大阪市 文楽を中心とした古典芸能振興事業企画運営業務事業予定選定委員会 委員
- ・2022年4月～2023年3月 大阪府 オオサカアートフェスティバル運営業務に係る公募型プロポーザル方式等事業者選定委員会 委員

- ・ 2022年4月～現在 大阪市 文化アドバイザー
- ・ 2022年4月～現在 大阪府 文化アドバイザー
- ・ 2022年4月～現在 大阪府市文化振興会議 委員
- ・ 2019年5月～現在 Dallas Asian American Youth Orchestra 音楽評議員

■特筆する活動や功績
(個人)

The Spirit of the Moon (2022年9月)

指揮者のケントナガノ氏、メゾソプラノの藤村美穂子氏、ハンブルクフィルハーモニーのメンバーと大阪市中央区を拠点に活動する山本能楽堂とのコラボレーションに参加。シェーンベルグ「月に憑かれたピエロ」と今昔物語「月とうさぎ」を題材にした創作オペラ/能の共同制作であり、1年間にもおよぶ準備段階から音楽スタッフとして参加した。公演ではナガノ氏のアシスタント指揮者を務め、第2回くまもと復興国際音楽祭と大阪市での2公演を支えた。

日本オペラプロジェクト (2021年2月～3月)

新型コロナウイルス感染症の蔓延により活動中止を余儀なくされている米国テキサス州ダラスアジアアメリカ青少年オーケストラの生徒たち、及びダラス・フォートワースコミュニティの方々には日本の舞台芸術の歴史や和物オペラをzoomを使用したレクチャーで紹介。文化庁 令和2年度「文化芸術活動の継続支援事業」

Dallas Asian American Youth Orchestra Europe Tour (2018年6月16日～23日)

同団初となるヨーロッパ演奏旅行を企画、資金調達、手配、指揮まで主導。指揮者3名、演奏者40名、保護者20名からなるツアーグループでオーストリアで2公演を行う(ウィーンのペーターズ教会とザルツブルグのモーツァルテウム大ホール)。また、演奏活動以外ではオーストリアの有名音楽家や作曲家の歴史ツアーや体験型ワークショップなどを行い、教育型の観光ツアーも実施。

(堺シティオペラ)

令和2年度 文化芸術による子供育成総合事業(巡回公演) (2020年11月～2021年3月)

E. ファンパーディング作曲のオペラ『ヘンゼルとグレーテル』を60分に編集し直し、日本語歌詞で演奏。指揮者とプロデューサーとして演奏と運営の両方を担当。新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、相次いで小学校から公演キャンセルが発生したが、徹底した感染症対策のリハーサル、演出、公演を行った。当初は四国の小学校を訪問する予定だったが大阪からの訪問を懸念され、最終的には大阪府内の小学校で公演を実施。公演開始時には8公演の予定だったが、徹底した営業により最終的に12公演を行った。

日本・チェコ交流100周年事業「人魚姫の物語」 (2020年8月8日)

日本ではあまり演奏されないA. ドボルザーク『ルサルカ』を90分に編集し直し、日本語歌詞で演奏する子どもから大人まで楽しめるオペラ公演として実施。指揮者と団体事務局長としてプロデュースから演奏までを担当する。誰もが知っている「人魚姫」の物語が原作となっているため、オペラを知らない人たちにも楽しんでもらえる趣旨。2020年はチェコと日本が国交100周年の年だったため、チェコ共和国大使館やチェコセンターを始めとするチェコ政府機関と共に「日本・チェコ交流100周年事業」として行う。新型コロナウイルス感染症の再拡大の中での国際的な取り組みは読売新聞などのメディアにも掲載され、オペラ公演としてだけでなく文化芸術を通じた国際交流としても大きく注目を集めた。令和2年度大阪府芸術文化振興補助金対象事業。

堺から“あなたの自宅へ”～Stay Home 応援プロジェクト～ (2020年6月～8月)

新型コロナウイルス感染症の蔓延により全てのイベント、公演、研修事業が中止に追い込まれる事態となった。政府による「stay home」の感染対策喚起を文化芸術団体として支えるため、過去の定期公演から6作品の映像を無料でYouTubeに公開。團伊玖磨作曲のオペラ『ちゃんちき』などの邦人オペラ作品を含むことから海外からの視聴があると予想し、日本語と英語でタイトルや説明文を作成し、世界中の国々で視聴されることとなった。また、その取り組みは読売新聞などで取り上げられた。

第34回定期公演『アイダ』 (2020年1月11日・12日)

堺市に新しく新設されたフェニーチェ堺のグランドオープニング事業を締めくくるイベントとして、G. ヴェルディ作曲のオペラ『アイダ』を演奏。事務局長として歌手、オーケストラ、スタッフ、ボランティア含め総勢350

名以上の大所帯を統率し、制作面から音楽面のフォローアップと共に行った。運営面での工夫はもちろんであったが、新聞やウェブメディアへのアプローチを強化し、朝日新聞・日本経済新聞、読売新聞などのメディアに取り上げられた。2020 年度大阪文化祭賞大賞を受賞。また、その記念事業として過去定期公演より 6 作品のフル公演映像を YouTube で無料公開し、日本だけでなく世界各国から視聴された。